

子供達に熱き眼差しを

「錦織圭、里見香奈そして隠岐の海、この三人が一堂に会した番組が出来たらいいね」10数年前あるＴＶ局の番組審議会の席上、こんな提案をしたことがあります。当時、島根出身の三人の若者の活躍に胸を踊らせ、どんなに誇らしく思ったことか。

政治、経済、学術、文化、スポーツあるいは職人と呼ばれる技能者、どんな分野でもいい、世界や全国レベルで活躍する逸材が、この松江の地から巣立って欲しいと思います。そして同時に、この地で生まれ育った子供達が、誠実に日々の生活を送り、社会の維持発展を根底から支える人間に育ってくれたらと切に思うのです。

日本の出生数は80万人。戦後の最盛期の4割に過ぎません。松江市でも年々出生者が減少し、昨年はついに千五百人を割りました。現在我が国は二人で一人の高齢者を支えています。四半世紀後には

一人で一人の高齢者を支える時代が到来します。人類が初めて経験する超高齢社会。支える側に立つのは、紛れもなく現代の子供達です。

彼らが健やかな成長をとげ、社会の中核として活躍せねば、今後の安定した社会の継続は望めないのです。このような将来展望に立てば、今こそ子供達へ「ヒト、モノ、カネ」の集中投入が必要と思われるのです。

子供達の成長の根幹は学校教育と家庭教育にあります。今、そこに地域が加わることで、これまで以上に求められています。

地域にできることは限られています。何ができるか模索を続けます。日本の未来の鍵を握る子供達の成長、公民館の役割は益々大きくなります。